

令和7年度 仙台市立鶴谷特別学校の研究概要 ～令和8年1月末現在～

運営委員氏名（ 渡辺 佳子 ）

研究テーマ	単元・題材計画シートを活用した資質・能力を育む授業作り ～環境作りの工夫を通して～
研究目標	本研究を通して、本校の授業を、資質・能力の三観点で見直し、学習指導要領を活用した根拠のある授業を行えるようにする。また、環境作りの工夫の内容を明確にすることで、個や集団に応じた指導の工夫についての理解を深める。さらに、目標設定、授業実践、評価を通してPDCAサイクルを回し、授業改善へとつながられるようにする。

【研究計画】（研究期間3年）

年次／年度	テーマ	内容
1年次／令和6年度	各教科の授業を通して	本校の教育課程上行われている、各教科である、国語、算数(数学)、体育、音楽、家庭科の中から学部ごとに授業実践を行う。
2年次／令和7年度 (今年度)	各教科等を合わせた指導を通して	本校の教育課程上行われている各教科等を合わせた指導である、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習の中から学部ごとに授業実践を行う。
3年次／令和8年度	一人一実践を通して	2年次までに行ってきた授業実践をもとに、単元計画シートを活用して一人一実践を行い、実践した内容を共有する。

・今年度の研究計画

日にち	研究日	実施形態	内容
4/17	拡大研Ⅰ	全体	校内研究の方向性を検討
5/1	全体会Ⅰ	全体	校内研究計画を提案・協議
6/18	研究日①	全体	授業作り研修会（講師：教育センター石川指導主事）
7/16	研究日②	学部	事前検討①：単元・計画シートの活用、学習指導要領の確認等
8/21	研究日③	学部	事前検討（授業①、授業②の両方）
9/19	研究日④	全体	授業作り訪問Ⅰ
10/21	研究日⑤	学部	研究授業と事後検討会：研究日を基本として、学部毎に日程を決め、評価基準をもとに、目標達成できたか評価。有効だった手立てについて検討する。
11/28	研究日⑥	学部	
12/18	研究日⑦	学部	研究授業の内容とその成果について整理する
1/21	研究日⑧	全体	研究授業の内容とその成果について共有する
2/10	拡大研Ⅱ	全体	今年度のまとめ、次年度の方向性を検討
2/26	全体会Ⅱ	全体	今年度のまとめ報告、次年度研究の提案・協議

・三観点の中から、特に「思考・判断・表現」に迫り、「考える、判断している、表現している姿」を引き出すために有効だった手立てについて検討した内容について※研究授業後の検討会で出された感想の中から（研究部通信から抜粋）

〔小学部〕

有効だった手立て

< A 課程 >

- ・自分で選ぶために カードではなく実物を指差したり、実物の方へ歩いたりして選択する方が良さそう。
- ・支援者との信頼関係 まぶたのうごきなど児童の小さな反応も見逃さないことが良かった。
- ・簡潔な言葉掛け 児童の分かる単語で短く簡潔に伝えていたのが良かった。
- ・必要な支援具の精選 魚釣りで道具を使う必要はあったか。手づかみの方が自ら動いたかもしれない。
- ・活動時間は余裕を持って 選ぶ時間がもっと長ければ手を伸ばしたかもしれない。

< B 課程 >

- ・ **複数の道具から選択** 綿棒やマッシャーなど用途の異なる複数の道具を置いておいたことで、自分から道具を使い分ける姿が見られた。
- ・ **手本児童が見える座席** 友達をちらちら見たり、「どう？」と話しかけたりしながら進めていた。
- ・ **繰り返しの单元** 繰り返したことで、今日の芋は堅いなどと前回までと比べることができていた。
- ・ **視覚的な支援** 計画シート（必要な材料が書かれた用紙）を準備したことで、シートを見ながら必要な材料を選ぶことができた。
- ・ **必要な支援の精選** じゃがいもを潰しやすいように細かく切って提示したが、そのまま提供した方が、児童も潰した感があったかもしれない。
- ・ **簡潔な動線** お盆を運ぶ場所まで直線で距離も近かったため一人で歩くことができた。

〔中学部〕

有効だった手立て

< A 課程 >

- ・ **物的支援** 2 択のカードを使うことで自分から手を伸ばし、やりたい作業を選ぶことができた。
- ・ 水切りのローラーや泡立て器の柄を太く持ちやすく工夫することで、自分でしっかり持ち、動かすことができていた。
- ・ 取れた水分が分かるよう、水を吸収するローラーを使用し、水分を視覚化したことで、水分が取れた事が理解しやすかった。
- ・ 生徒の好きな触り心地の花紙を選択肢に入れることで、自分で掴む様子が見られた。
- ・ ラミネート剥がしの持ち手が生徒の好きな感触の素材で工夫されていることで、取り組みやすくなった。
- ・ **人的支援** 支援者が途中で交代することで、手の動きの幅に広がりが出ていた。

< B 課程 >

- ・ **物的支援**
 - ・ 材料を小分けにして入れるセパレートボックスを用意したことで、使う材料と手順が分かりやすかった。
 - ・ 完成した作品を並べる枠を用意したことで、提出する場所が分かり、一人でスムーズに取り組んでいた。
 - ・ 5 個ごとに完成した作品の枠に「できました」と印刷されていることで、報告も一人でできていた。
 - ・ タイマーを使うことで一つの工程が終わるまで取り組んでいた。
 - ・ 製氷皿に材料を分けて入れたことで、1 回分の量が分かり、自分で取り出して使うことができていた。
 - ・ 「できました」カードを使って報告することに繰り返し取り組んだ事で、今までできていなかったが、（研究授業）当日にできるようになっていた。
- ・ **人的支援** 教師や友達が取り組む様子を見て、真似して取り組もうとする姿が見られた。

〔高等部〕

有効だった手立て

< A 課程 >

- ・ **物的支援**
 - ・ 最初は、教師が得点板を指差して示したが、自分でできる様子を見て目印を外したり、指差しを減らしたりしたため、自分一人で行えるようになった。
- ・ **人的支援**
 - ・ すぐに声を掛けられる位置に担任がいるようにした。
 - ・ 困った様子があっても、担任がすぐに声を掛けずに見守った。そのことで、自分から担任に分からないことを確認できた。

< B 課程 >

- ・ 教師による声掛けだけでなく、同学年の友人の声掛けや意見が心に届くこともあった。
- ・ 予定表に記入する際、丁寧に書かなくても単語だけでも良いことを伝え、書くことの負担を減らして、考える時間を費やしてみた。

(支援学校用・研究報告様式)

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。